

令和元年 10 月 25 日(金)18:30 より大曲厚生医療センター大会議室に於いて、「医療被ばく管理・相談」をテーマに今年度の県南支部第 2 回学術研修会が開催されました。週末で多忙にも関わらず会員 16 名の参加がありました。

座長を大曲厚生医療センターの木村 保さんに務めていただき、被ばく相談員並びに産業カウンセラーの資格を持つ市立横手病院の法花堂 学さんから「放射線技師は聴き上手？－患者さんに安心して放射線検査をうけていただくために－」と題して講演をしていただきました。

内容は傾聴技法を取り入れた被ばく相談の進め方についてでした。傾聴とは、相手の話に向かい合って理解する努力をすることで、相手から信頼を得ることだそうです。相手を理解する方法として受容(相手を受け入れる)、共感(相手の立場になって考える)を常に心掛けることが必要とのことでした。また、準拠枠(自分の経験で相手を判断する)については傾聴の障害となることがあるためうまくコントロールすることが大事であるとも話されました。そして、傾聴する際決して取ってはいけない態度として、腕組み・ため息・不愛想な表情などを挙げていました。

傾聴技法だけでは不十分な部分もあり、それは患者さんにいかに正しい情報を提供できるかということでした。そのためには被ばくに関する正しい知識を身に付け、確立的・確定的影響のリスクを詳しく説明できるようになることが必要であり、言葉だけではなく資料を活用することも有効な手段であるとのことでした。

医療被ばく相談では正解というものはなく、技師によって対応はまちまちであるが、傾聴技法を使いながら対応することで、お互いに深い絆を築くことができれば最高であると話されました。

来年度より医療法施行規則改正により診療放射線に係る安全管理が義務付けられます。患者さんに対する検査説明や医療被ばく相談をはじめとして、患者さんから説明を求められた時の対応方法が重要となってくることは間違いありません。限られた時間ではありましたが、傾聴や相手の話す言葉を言語化してその気持ちを要約してかえす練習もやらせていただき、自分の傾聴スタイルを見付けるきっかけとなる研修会であったと思います。

(記 加羽 馨)

